2020年3/20　（第三種郵便物認可）　3月20日　静岡新聞 朝刊

ロボット化支援へ窓口

浜松、中小企業の競争力強化

来月開設

浜松地域イノベーション推進機構は4月1日、中小企業のロボット化に対応するワンストップ窓口を開設する。専門のコーディネーターを配置し、県西部の産業支援機関や自治体との連携を強化しながら地域企業を支援する。同様の拠点設置は県内初という。

「スマートものづくり支援デスク」の名称で、同機構のある浜松商工会議所会館（浜松市中区）内に設置する。民間公募で技術コーディネーター1人、アドバイザー数人を配置予定。専門知識を生かして中小企業の相談に応じ、産業用ロボットやIoT（モノのインターネット）導入による生産性向上と競争力強化につなげる。

県や浜松市、浜松商工会議所など、これまでも協力してきた各機関とも緊密に連携する。県立浜松技術専門校（同市東区）などとロボット技術者講座を共催する計画で、人材育成にも努める方針。

同機構の担当者は「ロボット化は難しいというイメージが強い。窓口を気軽に利用してもらい、多くの地域企業にロボット化を進める機会を提供したい」と話す。

（浜松総局・高松勝）

中日 2020、4/2、

ロボット、IoT導入支援窓口オープン

浜松地域イノベーション推進機構

浜松地域イノベーション推進機構（浜松市中区）は一日、製造現場へのロボットやIoT（モノのインターネット）の導入を後押しする「スマートものづくり支援デスク」を浜松商工会議所会館八階に開設した。産業用ロボットに詳しいヤマハ発動機の出身者やIT専門家らが平日の午前八時四十五分～午後五時に無料で相談に乗る。

開所式があり、同機構の山崎勝康理事長が担当者に指示書を交付。アラキエンジニアリング（中区）の荒木弥代表が多関節ロボットによる作業を実演した。新型コロナウイルスの影響で設備投資の抑制が懸念されるが、山崎理事長は「景況が上向いた時にロボットをすぐに導入するための人材育成が必要だ」と強調した。問い合わせは同機構＝電053(489)8111＝へ。（久下悠一郎）

山崎勝康理事長㊨から指示書を受け取るスマートものづくり支援デスクの担当者たち＝浜松市中区で

ロボット化支援

浜松に拠点開所

浜松地域イノベーション推進機構は1日、中小企業のロボット化支援拠点「スマートものづくり支援デスク」を浜松市中区の浜松商工会議所会館にある同機構事務所内に開設した。

同機構職員3人のほか、民間公募で決まったコーディネーターとアドバイザー計3人の6人態勢。産業用ロボットとIoT（モノのインターネット）導入を目指す地域企業の相談に無料で応じる。県内初という同分野でのワンストップ窓口で、県や県西部の市町、産業支援機関と緊密に連携する。

同日の開所式で、同機構の山崎勝康理事長は「ロボットやIoT導入は今後必ず必要になる。浜松地域が全国有数のロボット先進地になるよう企業を支援したい」と述べ、チーフデスクに就いた同機構の金子和佳さん（ヤマハ発動機から出向）らに辞令交付した。

今後は企業訪問や技術セミナーなどを展開予定。

中小企業のロボット化支援方針を確認した開所式＝1日午後、浜松市中区の浜松商工会議所会館

2020、4/2、静岡新聞 朝刊